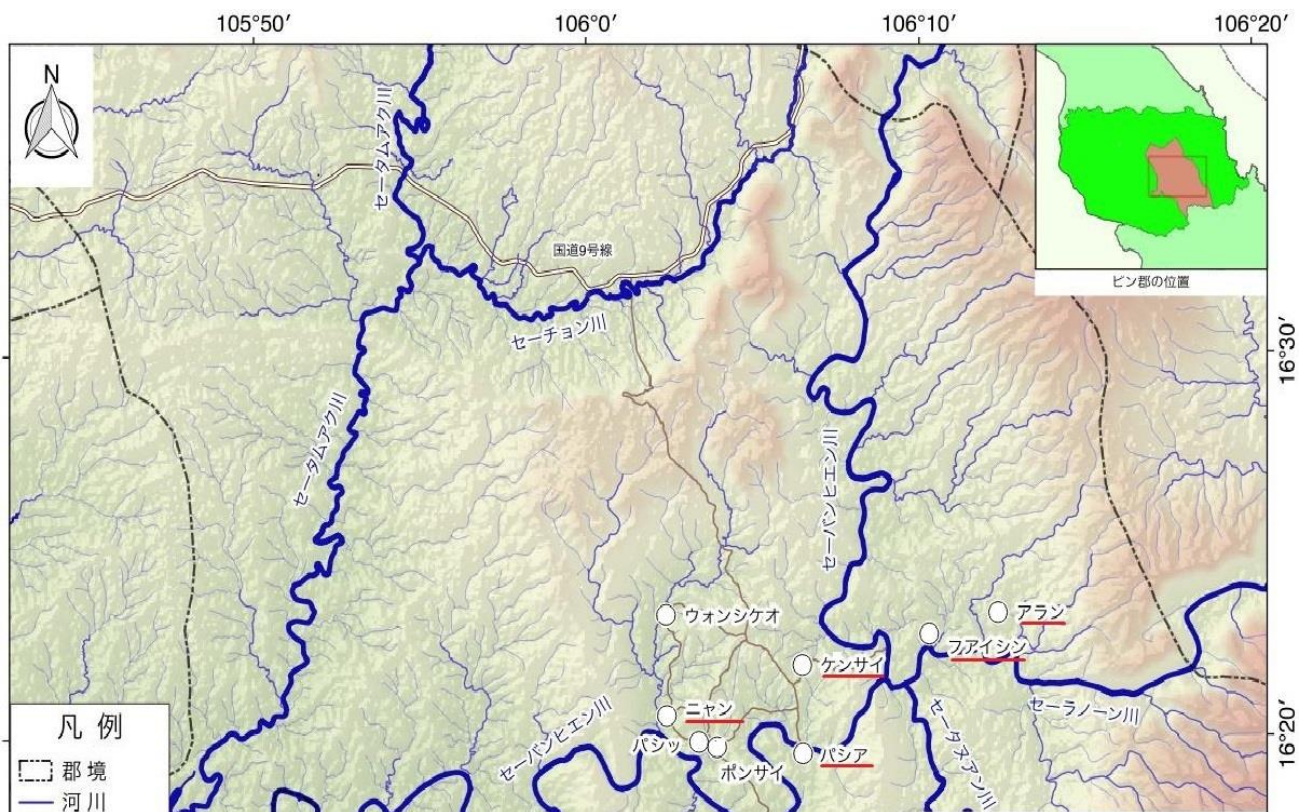


ラオス洪水被害・緊急支援報告

JVC ラオス事務所 岩田 健一郎

1. 背景

8月末の台風上陸に伴う集中豪雨の影響で、9月上旬にラオス南部を中心に大規模な洪水が発生した。JVCの活動地であるサワンナケート県ピン郡においても、郡内を流れるセーバンヒエン川、セーラノン川を起点とした広範囲な洪水が発生し、JVCの活動村5村（ニャン村、パシア村、ゲンサイ村、フアイシン村、アラン村）全てが被害を受けた。



サワンナケート県ピン郡の JVC 活動村と主要河川

2. 現地の状況推移および JVC の活動経過 (添付の写真レポートを参照)

日 時	出来事
9 月 3 日 (火)	ピン郡のセーバンヒエン川、セーラノン川が氾濫し、各村で浸水が始まる。村人は山中や高台にある小学校などに一斉に避難 ¹ 。
9 月 4 日 (水)	村内の浸水が最高位に達する。JVC の活動村の村人から JVC スタッフに洪水の状況を知らせる連絡が入り始める。
9 月 5 日 (木)	村内の浸水が高止まりを続ける。

¹ 村人は持てるだけの米と塩、唐辛子を持ち、雨水や池、川の水を飲みながら、タケノコやコオロギ、カエルなどを採って一日一食で飢えをしのいだと話す。

9月6日（金）	村内浸水の水位が下がり始める。同日夜、ラオス人スタッフチームリーダーのフンパン、山室 ² 、岩田で関係者に対する情報収集および対応の検討を開始。
9月7日（土）	村内の浸水が終わる。同日午前、収集した情報をもとにフンパンおよび岩田で協議の上、約20万円を初動予算として緊急支援の実施を決定。東京担当の木村に一報を入れる。サワンナケート市内で支援物資を購入し（写真①）、フンパン、ドライバーのホーム、岩田、レンタカーの運転手の4名でピン郡に向かう。途中悪路のため3時間近くの立往生を強いられ、21時、JVCピン郡出張所に到着、宿泊。
9月8日（日）	村人が避難先から村に戻り始める。7時30分、郡行政機関ピン郡農業普及センター（以下、ATSS）にて行政官（同センター所長、副所長他4名）から村の被害状況等を聞き取る。10時30分、ニャン村の村人5名（村長、副村長2名、他2名）がトラクターで村から4時間かけてATSSに来訪。村人から洪水と避難の経過、被害状況を聞き取った後（写真③、持参した支援物資の半数を引き渡す（写真④）。12時30分、支援物資とともにボートでセーバンヒエン川を渡り（写真⑤⑥）、パシア村に到着。村内を歩いて被災状況を確認した後（写真⑦～⑩）、村人（村長他8名）から被害状況等の聞き取りを行う。14時30分、持参した支援物資の半数を、全世帯を対象として世帯ごとに手渡す（写真⑪～⑭）。16時30分、今後の対応を検討するため、サワンナケート市に戻る。
9月9日（月）	7時30分、東京担当の木村と岩田で今後の対応を協議、約25万円を予算として2回目の緊急支援実施を決定。サワンナケート市内で支援物資を購入し、フンパン、ドライバーのホーム、岩田、レンタカーの運転手の4名でピン郡に向かう。19時、JVCピン郡出張所に到着、宿泊。
9月10日（火）	7時30分、パシア村の家屋を失った3世帯がJVCピン郡出張所に来訪、被害状況等の聞き取りを行った後、雨露をしのぐためのブルーシートを手渡す。9時、ATSSにてゲンサイ村の村人4名（集落長2名、他2名）に聞き取りを行った後、同センターに集まったゲンサイ村プセー集落の全世帯に支援物資を手渡す（写真⑮～⑰）。12時30分、セーバンヒエン川に架かる橋（フアイシン村、アラン村の村人が日常的に利用）の流失状況を確認（写真⑱）。13時30分、フアイホイ村に設置された行政の災害対策所（写真⑲）を訪問し、常駐の行政官2名から各村の被害状況および支援状況を聞き取る。14時30分、支援物資とともにボートでセーバンヒエン川を渡り、トラクターでフアイシン村に向かう（この際、支援物資を引き取りに来ていたアラン村のラヨン集落長に一旦物資を渡す）（写真⑳～㉒）。16時、フアイシン村に到着し、全世帯を対象として世帯ごとに支援物資を手渡す。あわせて村長から村の被害状況等を聞き取り、村内を歩いて被災状況を確認する。19時、JVCピン郡出張所に到着、宿泊。
9月11日（水）	7時、ATSSにて同センターの所長、副所長とアラン村の支援対応を協議。8時30分、ゲンサイ村の被災世帯を訪問、状況確認。10時、ニャン村に到着。村人5名（村

² 山室は一時帰国につき9月8日（日）にラオス出国を予定していたため、同行を見送った。

	長、他 4 名) から村の支援・生活状況を聞き取り、村内を歩いて被災状況を確認する(写真③⑧)。14 時、ボートでセーバンヒエン川を渡り、トラクターでアラン村のラヨン集落に向かう。15 時、アラン村のラヨン集落に到着。村人 7 名(集落長 1 名、他 6 名) から村の被害状況等を聞き取り、支援物資の配布方法を確認する。また、村内を歩いて被災状況を確認する。18 時 30 分、ピン郡中心部のゲストハウス到着、宿泊。
9 月 12 日(木)	8 時、ピン郡郡長面会(写真④⑨)。9 時、サワンナケート市に戻る。

3. 活動村の被害状況

活動村の村人および行政官からの聞き取り、村内視認に基づいて確認できた範囲の各村の被害状況は以下の通りである(被災直後のため未だ情報が錯綜しており、一部事実誤認が含まれている可能性がある)。

	ニャン村 (78 世帯)	パシア村 (88 世帯)	ゲンサイ村 プセー集落 ³ (58 世帯)	フアイシン村 (50 世帯)	アラン村 ラヨン集落 ⁴ (29 世帯)
死者・ 行方不明者	・なし	・なし	・村人 A さんの 母親(105 歳)は避難 中に無くなり、A さん の夫は避難中に病にか かり、悪路のため病 院に行けず亡くなった	・なし	・なし
建物	・家屋全棟浸水 (屋根上浸水、高床式 1 階床上、床下浸水多 数)、その内 4 棟傾斜 ・出作り小屋流失多 数	・家屋全棟浸水 (屋根上浸水、高床式 1 階床上、床下浸水多 数)、その内 3 棟倒壊、 5 棟傾斜 ・雑貨店 4 棟流失 ・米蔵 5 棟傾斜	・家屋全棟浸水 (屋根上浸水、高床式 1 階床上、床下浸水多 数)、その内 2 棟倒壊、 1 棟傾斜	・家屋 2 棟浸水 (高床式 1 階床上浸水)	・家屋 3 棟浸水 (屋根上浸水 1 棟、高 床式 1 階床上浸水 2 棟)
水田・米	・全世帯分の水田全てが 浸水し、今季収穫不可 能	・全世帯分の水田全てが 浸水し、今季収穫不可 能	・少なくとも 33 世帯分 の水田全て、6 世帯の水 田半分が浸水し、	・40 世帯分の水田全て、 10 世帯分の水田一部が 浸水し、今季収	・16 世帯の水田全て、 13 世帯の水田一部が 浸水し、今季収穫不可 能

³ ゲンサイ村ではプセー集落が最も大きな被害を受け、他集落の被災は限定的だったため、時間の制約上今回の現地調査は見送った。

⁴ アラン村ではラヨン集落が最も大きな被害を受け、他集落の被災は限定的だったため、時間の制約上今回の現地調査は見送った。

	・米は全世帯分が流失あるいは泥水に浸かり、残余分ほぼなし	・米は全世帯分が流失あるいは泥水に浸かり、残余分ほぼなし	今季収穫不可能(一部不明) ・米は少なくとも32世帯分が流失あるいは泥水に浸かり、残余分ほぼなし(一部不明)	穫不可能 ・米は浸水していないが、残余分は少ない	可能
家畜	・不明(相当数)	・不明(相当数)	・不明(相当数)	・牛4頭、豚12頭、鶏50羽を失う	・特になし(鶏10羽との情報も)
家財	・衣類、調理具流失多数	・衣類、調理具流失多数 ・車1、精米機全世帯分故障	・衣類、調理具流失多数	・特になし	・特になし
外部支援	・9月10日に寺および行政機関から1回:米2.4kg、水(500ml)2本、即席麺14食(以上1世帯当たり)、服30着(合計)	・9月7日に有志個人から1回:水(500ml)8本、即席麺60食、衣類少量(以上、1世帯当たり)	・有志個人から1回(日付不明):水、即席麺、魚の缶詰、衣類(正確な数量不明、食料は1日で食べ切った)	・未確認	・1回(日付、支援元不明):炊飯器1台、塩6袋
特記事項	・被災後、米が極度に不足しているため、ピン郡中心部まで足を運んでタケノコや鶏との物々交換、あるいは物乞いをして米を得ている ・村の若者「物を買う現金を得るため、ラオス都市部やタイに出稼ぎに行くこ	・家屋を失った3世帯によると、次の洪水でまた被害を受けることを恐れて、特に低い土地に住んでいる世帯がまとまって10km以上離れた高台に移転するアイディアが村内で出ている	・浸水を受けた米蔵の中を確認したところ、米の一部は発芽し、一部にはカビが生えていた ・泥水に使った精米は悪臭がひどく、食べられない状態になっていた ・村人は浅井戸の水を飲んでいますが、悪臭がひ	・六つの養魚池、八つの家庭菜園が浸水被害を受けた ・村人「物を買う現金を得るため、家畜を売る、あるいは賃労働を行うことを考えている」 ・JVCが支援した深井戸、既存の浅井戸の一部は泥が入り込み、	・洪水後に4、5名の子供の咳と皮膚のかゆみがひどくなり、10名ほどの大人が頭痛を訴えている ・9月11日にセーラン川に魚を捕りに行ったところ、多くの魚が死んでいるのを見た 村人「米を得る

	とを考えている」 ・来季の稲作のため、村長は郡農林事務所に種籾の支援を要請する予定 ・JVC が支援した浅井戸は泥が入り込み、当面使用不可能		どい	当面使用不可能	ため、今年の収穫期は他の世帯の収穫を手伝って米を分けてもらう」、「物を買う現金を得るため、木材伐採の仕事を行うことを考えている」
--	--	--	----	---------	--

4. 緊急支援の詳細

洪水発生以降、活動村の村人から JVC スタッフに支援を求める連絡が相次いだ。JVC の活動地で起きた災害⁵で、かつ相当規模の災害であること、また村人から支援の強い要請があることに鑑みて、緊急支援の必要性は高いと判断、実施に踏み切った。この際、緊急支援活動に係る支出は、今年度のラオス事業の収支状況に照らして、たとえ事後の資金確保が出来なかった場合でも自己資金で賄える範囲とすることとした。

村人や現地行政官からの情報収集により、米その他の食料、薬、寝具のニーズが高いことが分かったが、薬については適切な内容が判断できないこと、また寝具については予算上平等な対応ができないことを踏まえて、支援物資を食料に絞ることとした。提供する食料の品目は、村人の要望に応じて決定した⁶。各村の支援内容は以下の通りである（活動の支出内訳は 8 ページ参照）。

	緊急支援（1 回目）		緊急支援（2 回目）			
	ニャン村 (78 世帯)	パシア村 (88 世帯)	ゲンサイ村 (59 世帯) ⁷	フアイシン村 (50 世帯)	アラン村 (104 世帯) ⁸	合計
米	350kg	350kg	472kg	400kg	180kg	1,752kg
	約 4.5kg/世帯	約 4kg/世帯	8kg/世帯	8kg/世帯	約 1.7kg/世帯	
塩	100kg	100kg	177kg	150kg	93kg	620kg
	約 1.3kg/世帯	約 1.1kg/世帯	3kg/世帯	3kg/世帯	約 0.9kg/世帯	

⁵ これは JVC が行う緊急対応の基準に合致している。「NGO の時代」267～268 ページ参照。

⁶ 1 回目の緊急支援では支援物資を 6 品目としたが、水の提供は費用に比して村人の需要を十分に満たすものではないこと、また村人は即席麺よりも米を強く求めたことから、2 回目の緊急支援ではこの 2 品目を除いた 4 品目とした。

⁷ ゲンサイ村では被災状況を踏まえて、プセー集落 58 世帯および大ゲンサイ集落 1 世帯の合計 59 世帯を支援対象とした。

⁸ 2 回目の緊急支援の際、アラン村の支援対象は最も被害の大きかったラヨン集落のみとすることを当初計画したが、その後アラン村の他集落から支援の要望があがり、現地行政官とも協議した結果、アラン村の全世帯（104 世帯）を支援対象とすることに切り替えた。そのため、各世帯が受け取った支援物資は他村に比べて少量に留まった。

魚の缶詰	50 個	50 個	118 個	100 個	82 個	400 個
	半個/世帯	半個/世帯	2 個/世帯	2 個/世帯	半個/世帯	
唐辛子	24kg	24kg	30kg	24kg	18kg	120kg
	約 0.3kg/世帯	約 0.3kg/世帯	約 0.5kg/世帯	約 0.5kg/世帯	約 0.2kg/世帯	
水(500ml)	180 本	180 本	—	—	—	360 本
	約 2 本/世帯	約 2 本/世帯	—	—	—	
即席麺	1,050 食	1,050 食	—	—	—	2,100 食
	約 13 食/世帯	約 12 食/世帯	—	—	—	
ブルーシート ⁹	—	3 枚	—	—	—	3 枚

支援物資の配布に際しては、一部住民（有力者）による囲い込みを防ぐため、均等割りした物資を世帯ごとに手渡し、受け取った住民から受領のサインをもらう、あるいは当人に代わって識字者がサインする形式とした。パシア村、ゲンサイ村、ファイシン村では JVC が物資配布に立ち会い、ニャン村では後日受領名簿を確認した（アラン村については次回訪問の際に受領名簿を確認する予定である）。

初動では、被害が大きいとの情報を事前に得ていたニャン村、パシア村を優先して支援した。2 回目の支援では、初動時に現地行政官から得られた情報をたよりに、ゲンサイ村のプセー集落、ファイシン村、アラン村のラヨン集落への支援を厚くした。しかしながら実際に村に足を運んでみると、ファイシン村、アラン村のラヨン集落の被災は限定的であった。ファイシン村、アラン村へのアクセスは困難な状況にあり、村人との連絡も不通状態が続く中、行政官の二次情報に頼らざるを得ず、結果的に支援の配分が不適切なものとなった。

5. 行政その他の支援状況について

「3. 活動村の被害状況」でも触れている通り、活動村への外部支援は行政や有志個人によってなされているものの、断続的かつ限定的で、不十分な状態にある。頼る先を持たない村人は郡中心部に物乞いに出掛け、あるいは出稼ぎを考え始めている。一方、ファイホイ村に設けられた災害対策所の行政官によると、記録が追いつかないほどの支援が同所に集まっているとのことだった。ファイホイ村は郡中心部から比較的アクセスが容易で、洪水発生後いち早くサワンナケート県知事が訪れた場所でもある。アクセスの難易によって支援の偏りが生じているのではないかと懸念を抱き、当初予定していなかった郡知事との面会を急遽行った。

郡知事の話では発災後、行政機関、民間支援組織（ワールドビジョンなど）、国際機関から多くの支援が寄せられているとのことだった。これを受けて JVC からは、活動村、特にニャン村、パシア村、ゲンサイ村は被災程度が大きいもののほとんど支援が届いていないこと、災害時には往々にして支援の不均衡が生じやすいことを伝え、支援の格差是正と当該地域への継続的な支援を求めた。郡知事は JVC の訴えに一定の同意を示しつつ、パシア村はピン郡の中で最も被害の大きい二つの村の一つだとの見解を示した。

⁹ パシア村の村長から、家屋を失った 3 世帯が洪水後も森で野宿をしているため、雨露をしのぐブルーシートを支援してほしいとの要望を受け、これを提供した。

郡知事は現在、関係機関との協議を重ね、第一に農業の再生支援、第二に菓の提供を始めとした保健衛生、第三に外部への支援要請の順に対応策を検討していると話した。郡行政としては県、国などの上位機関に支援を求めざるを得ない状態にあるとも語った。最後に JVC には米の支援を求められた¹⁰。

6. 今後について

現地の被災状況を勘案してみるに、村人にとって最も大きな問題は米を失ったことである。今食べる米を失い、次食べる米を得る手段を失った村人にとって、何とか食いつないでいく厳しい状況が続くことが予想される。そうした状況に対して、今回の緊急支援の様な短期的な支援はあまりに僅かな支えにしかならず、以後その可能性を全く排除するものではないにせよ、今後はより中長期的な村人の生活再建のための支援を検討していく必要がある。ここで中心となるのは、米をはじめとした食料確保のための農業支援であるだろう。その際、現行事業における農業関連の活動とうまく繋がりをつけていくことが重要となる。いずれにしても、ピン郡における特に自然資源管理に関わる活動は当面の間見合わせざるを得ず、少なからず活動計画の練り直しが求められる。

活動村の支援状況を随時確認しながら、支援の不均衡が生じている場合、郡、県、中央の行政にその是正を求めていくことは、JVC が果たすことのできる役割である。より長期的な視野に立てば、今回の被災範囲を地図化し、防災マップをつくることなども、これまでの活動の蓄積を活かす可能性の一つである。

村人との対話で印象的であったのは、「今回の洪水はダムが決壊したからだと思った」と村人が口を揃えて話していたことだった。村人の心の深層にはダムへの深い恐れがある。現在、アラン村近郊のセーラノン川ではダム建設が進められているが、これに関わる災害後の情報は得られておらず、今回の洪水との因果関係も不明である。アラン村の村人の体調変化も気に懸かる。ダム建設と自然環境との連関を引き続き注視していくこともまた、JVC の課題である。

¹⁰ この際あわせて道路建設の支援を求められたことも付記しておく。

【緊急支援（1回目）支出内訳】

1LAK=0.00012USD, 1USD=106.33円（JVCレート2019年9月1日時点）で計算

費目	単価(LAK)	数量		小計(LAK)	小計(円)
米	9,000	700	kg	6,300,000	80,385
塩	1,800	200	kg	360,000	4,593
魚の缶詰	5,500	100	個	550,000	7,018
唐辛子	250,000	4	パック(※1)	1,000,000	12,760
水(500ml)	20,000	30	パック(※2)	600,000	7,656
即席麺	1,400	2,100	食	2,940,000	37,513
配布袋	42,000	1	セット	42,000	536
JVCラオス人スタッフ日当	140,000	2	名	280,000	3,573
JVC車両燃料代	8,590	52	リットル(※3)	450,000	5,742
レンタカー代	850,000	2	日	1,700,000	21,691
ボート燃料代	200,000	1	回	200,000	2,552
合 計				14,422,000	184,019

(※1) 1パック12kg入

(※2) 1パック12本入

(※3) 千の位を切り上げて支払

【緊急支援（2回目）支出内訳】

1LAK=0.00012USD, 1USD=106.33円（JVCレート2019年9月1日時点）で計算

費目	単価(LAK)	数量		小計(LAK)	小計(円)
米	9,000	1,052	kg	9,468,000	120,808
塩	1,800	420	kg	756,000	9,646
魚の缶詰	5,500	300	個	1,650,000	21,053
唐辛子	250,000	6	パック	1,500,000	19,139
ブルーシート	120,000	3	枚	360,000	4,593
配布袋	34,000	1	セット	34,000	434
JVCラオス人スタッフ日当	220,000	2	名	440,000	5,614
ラオス行政官日当	50,000	1	名	50,000	638
JVC車両燃料代	8,590	49	リットル(※4)	420,000	5,359
レンタカー代	850,000	2	日	1,700,000	21,691
レンタカー延長料	400,000	1	回	400,000	5,104
レンタカー代(現地)	250,000	1	回	250,000	3,190
ボート乗船料(2往復分)	70,000	1	回	70,000	893
トラクターレンタル料	50,000	1	回	50,000	638
ゲストハウス宿泊料	100,000	3	名	300,000	3,828
合 計				17,448,000	222,630

(※4) 百の位を切り捨てて支払

緊急支援（2回分）支出合計

406,649円

以上